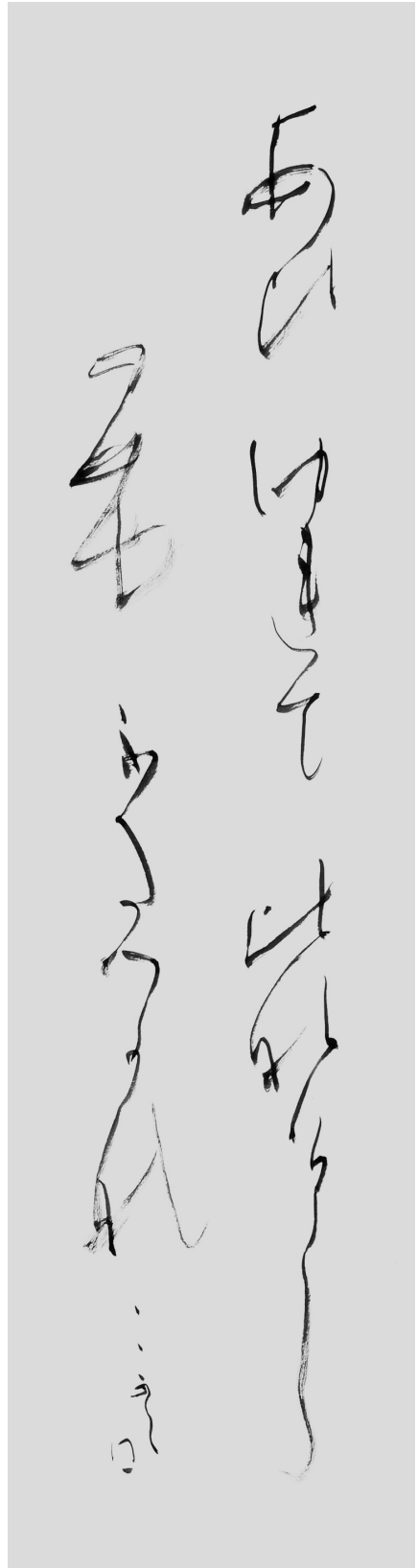


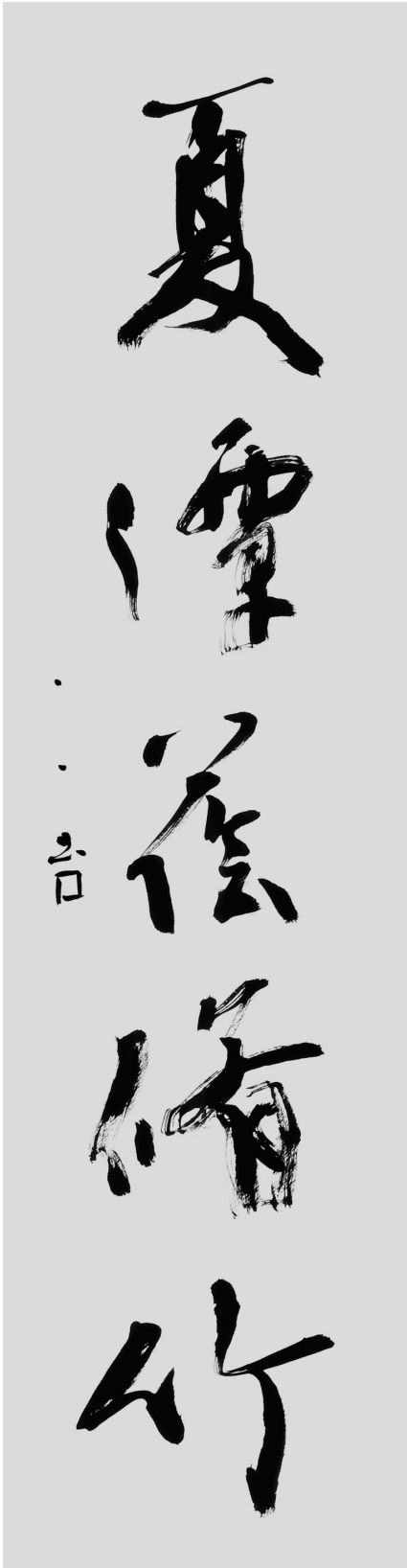
9月30日正午必着

明石春浦先生書



あひゆ^いれて^速 ひな^比げ^部しの^介花^多 ふ^可た^那つ^ねか^のな^ひ (子^あ日^ん庵^い一^っ草^{そう})

明石幸子書



夏^か潭^{たん}蔭^し脩^{ゅう}竹^{ちく} (武^お帝^う)

夏のふちの上には長い竹が茂っておおいかぶさっている。

9月30日正午必着

森戸春濤書

清波収潦日
華林鳴籟初
芙蓉露下落
楊柳月中疏

清波収潦日
芙蓉露下落

華林鳴籟初
楊柳月中疏

(蕭 愨)

雨水もひいて秋の清澄な流れとなり、美しい林に初めて風が吹き抜けて木々を鳴らすとき、芙蓉の花は露をふくんで散り、楊柳の葉は月の光に照らされてまばらとなる。

条幅部創作課題

四種の詩文から一種を選択して出品のこと。

望月樓高太清(王昌齡)

望月の樓は高く太だ清し

望月は十五夜の月。韋應物の詩に「西樓望月幾回圓」と。

懷君屬秋夜。散步詠涼天。
空山松子落。幽人應未眠。

(韋應物)

君を懷うて秋夜に屬す 散步涼天に詠ず
空山松子落つ 幽人應にまだ眠らざるべし

秋の夜は君を思うこと特に切であるが、君もまた眠につかずに我を思っていることであろう。

秋夜宿僧院

(劉得仁)

秋夜 僧院に宿す 劉得仁

禪寂無塵地

焚香話所歸

禪寂 無塵の地 香を焚いて 所歸を語る

樹搖幽鳥夢

螢入定僧衣

樹は幽鳥の夢を揺し 螢は定僧の衣に入る

破月斜天半

高河下露微

破月 天半に斜に 高河 露の微かなるを下す

翻令嫌白日

動即與心違

翻って白日を嫌わしむ 動即 心と違う

よもすがら木の葉かたよる音聞けば忍びに風の通ふなりけり

(熊谷 直好)

半紙部規定課題A

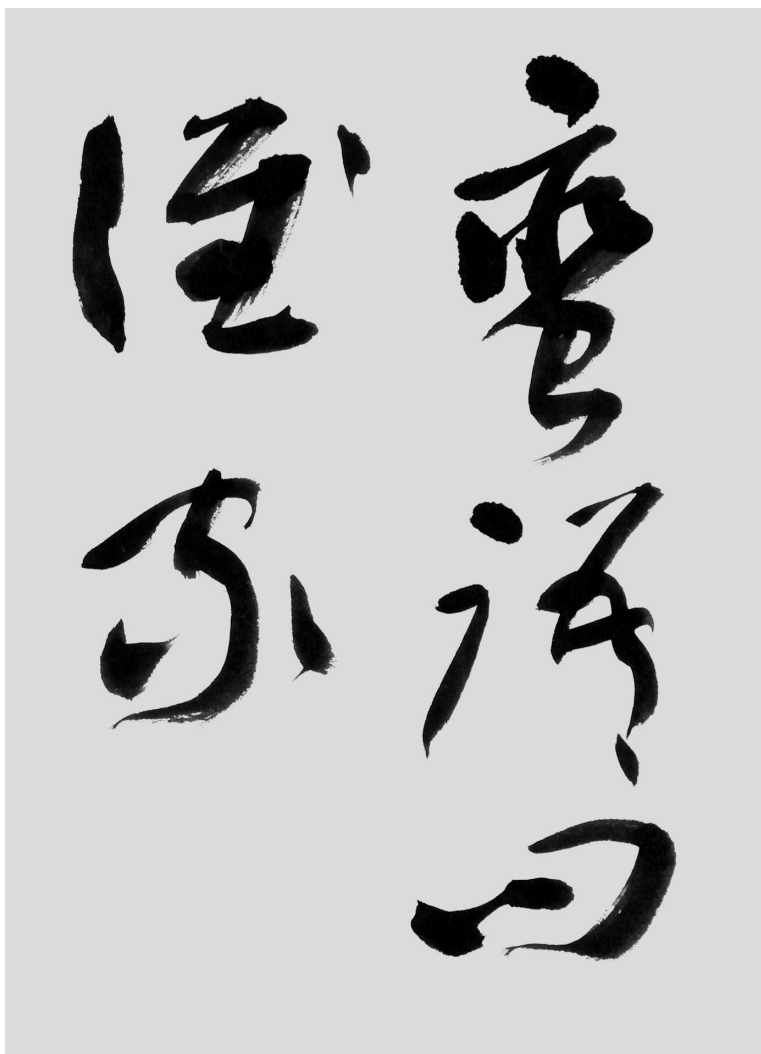
9月30日正午必着

誰
家
語
問

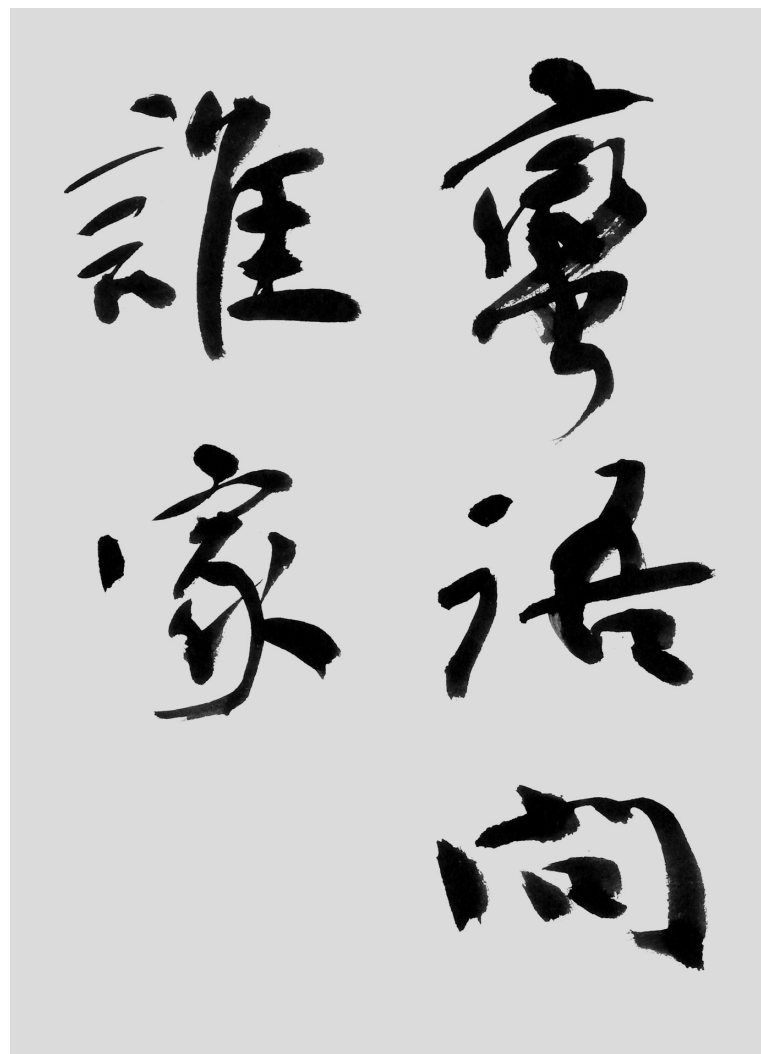
※作品には必ず落款を入れてください。

明石春浦先生書

※課題A(楷書)と課題B(五体の中より一書体選択)の二点を出品のこと。



草書

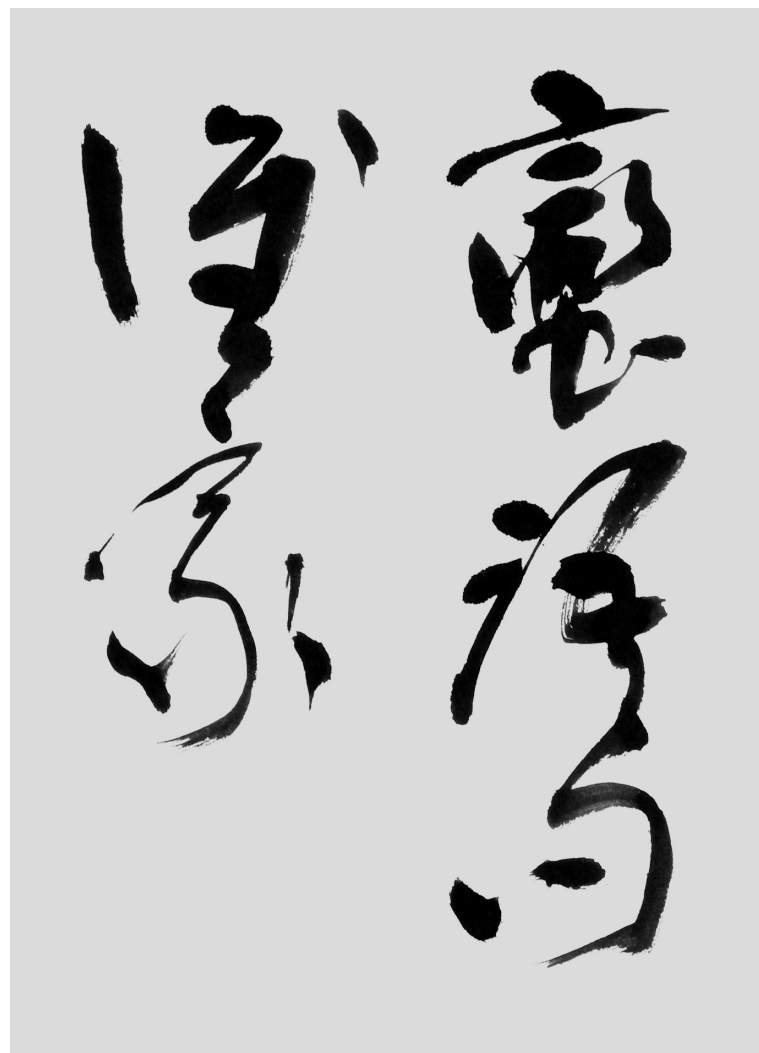


行書

9月30日正午必着



隸書



行草書

蠻語問誰家

篆書

贈「山中日南僧」

張籍

獨向「雙峯」老
松門閉「兩涯」
翻「經」上「蕉葉」
掛「納落」藤花「
甃石新開」井
穿「林」日種「茶」
時逢「海」南客「
蠻語問誰家」

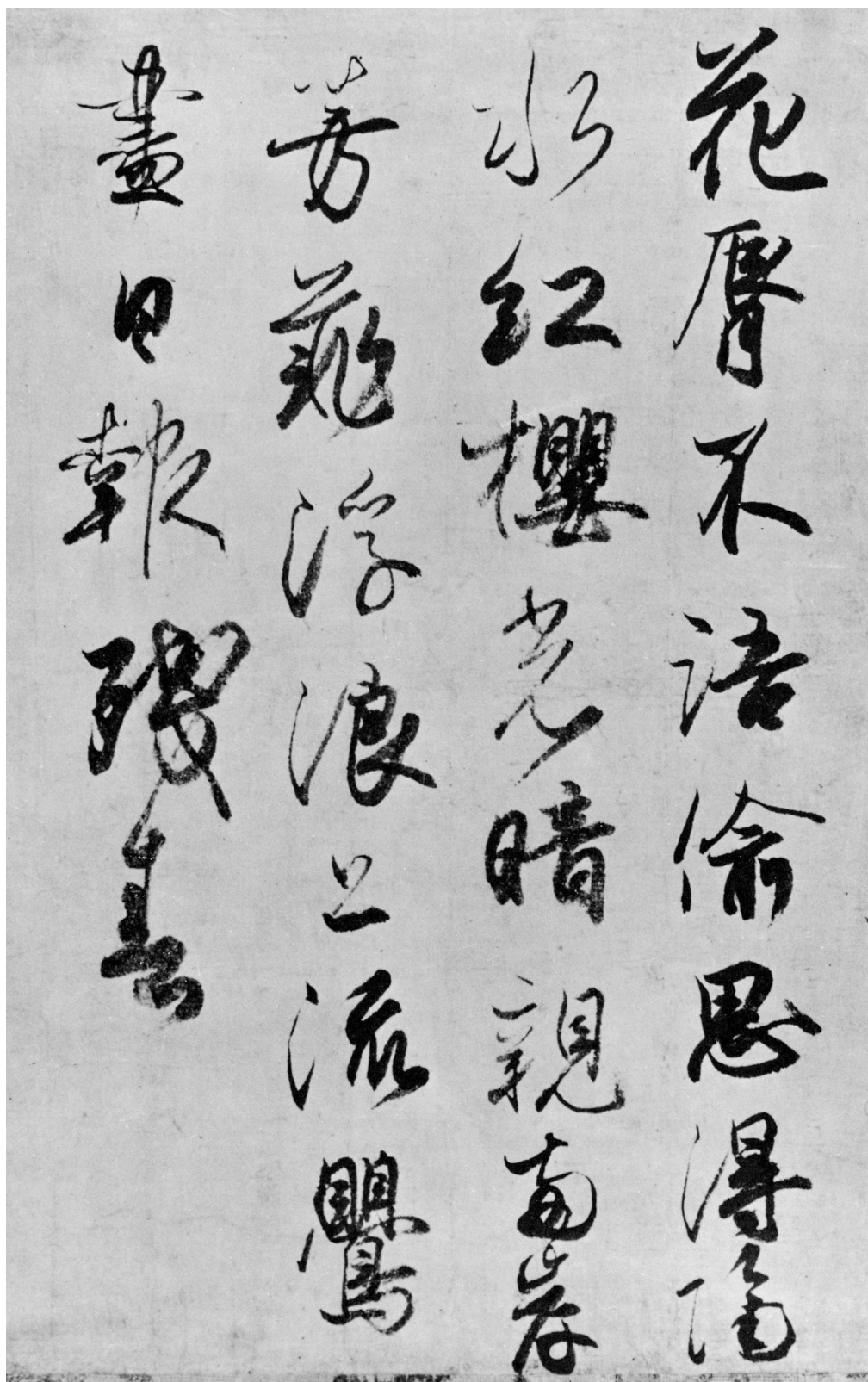
「山中」の「日南」の僧に贈る

張籍

ひとり「雙峰」に向かつて老ゆ
松門「兩涯」を閉ず
經を翻して「蕉葉」に上せ
納を掛けて「藤花」を落す
石を甃みて「新」に「井」を開き
林を穿ちて日に茶を種う
時に「海南」の客に逢い
蠻語して誰が家かを問う

ただひとり双峰に対して過す中に年老い 松木立の中の門は両側よりせまる崖をびったりと閉ざす
經典を翻訳して芭蕉の葉に書きしるし 袈裟を掛けておくところに藤の花が散りかかる
石畳を敷いて、新たに井戸を開き 林を切り拓いて毎日茶を植えておられる
時折り海の南より訪れる客に逢い 南蛮のことばで誰方かなどとたずねている

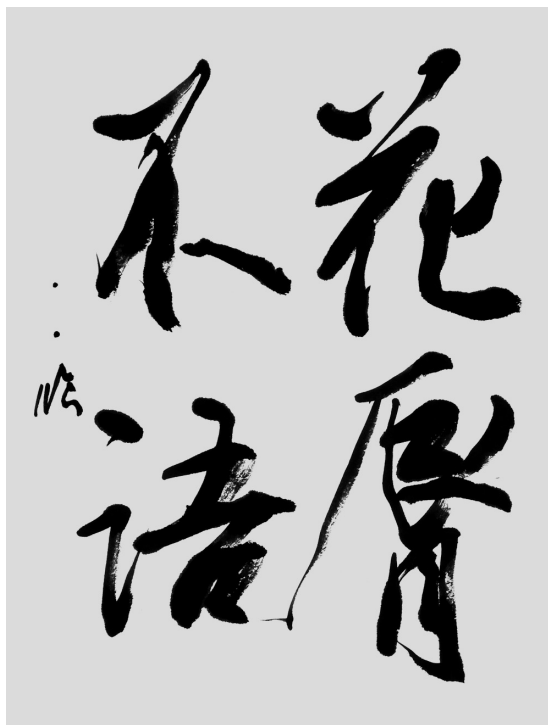
朝日新聞社刊
「三体詩」下より



花脣不語偷思得。隔水紅櫻光暗親。兩岸芳菲浮浪上。流鶯盡日報殘春。
花脣語らざれども、偷かに思い得たり。水を隔つる紅桜光暗に親しめり。兩岸の芳菲浪の上に浮かび、流鶯尽日残春を報ず。



花唇語らざれども、偷かに思い得たり。水を隔つる紅桜光暗に親しめり。



花唇語らざれども、

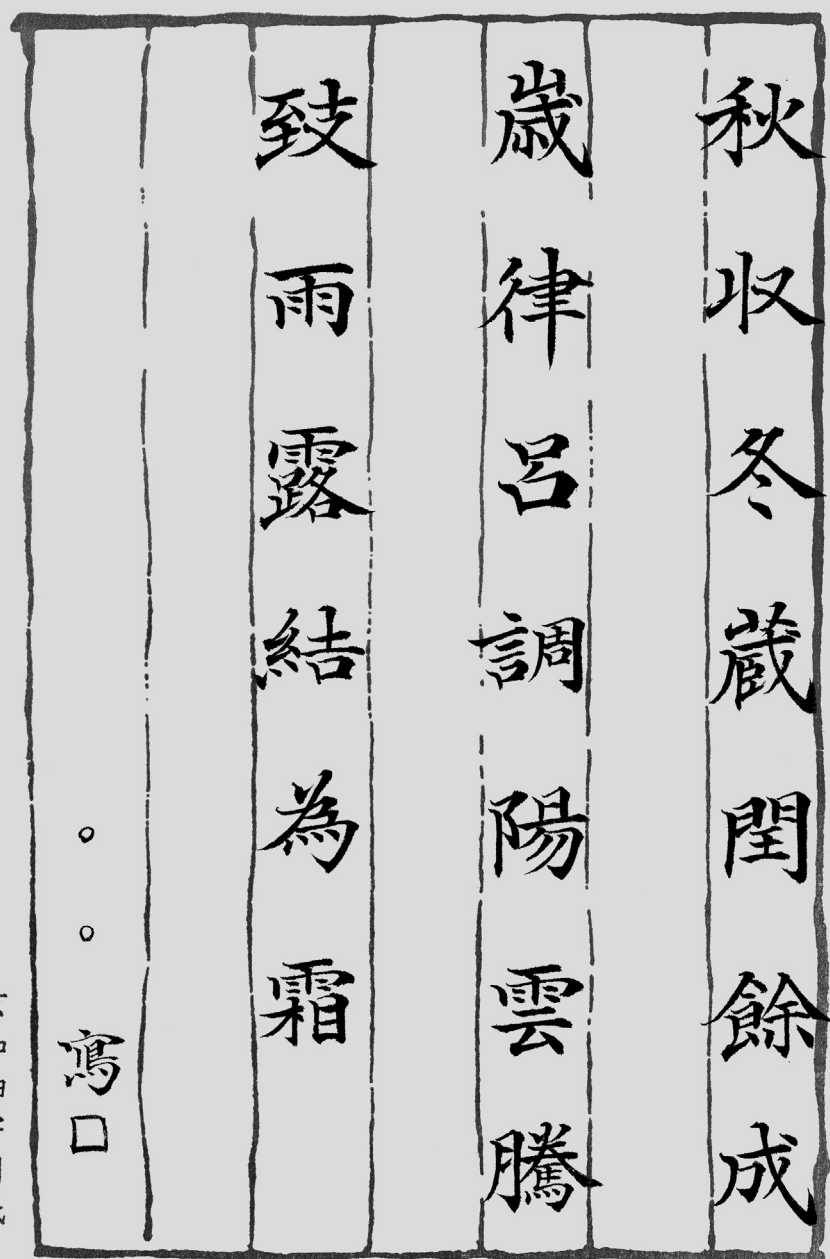
平安 詩懷紙・藤原佐理

藤原佐理（天慶七年〜長徳四年・九四四年〜九九八年）は藤原鎌足十二世の子孫で、摂政太政大臣藤原実頼の孫という名門に生まれながら、父の早逝と祖父の死により、最終官位は正三位にとどまった。しかし、佐理は権力には無関心で、その仕事ぶりも適当でわがままであったらしい。

ところが、書においてはその能書ぶりは有名で当代随一の名手と認められ昇進していったのである。（小野道風・藤原行成と共に三跡のひとりで「さり」とも称される）

この詩懷紙は安和二年（九六九年）三月十四日の祖父である太政大臣関白藤原実頼の小野宮殿における作文会の懷紙（七言絶句）とされている。左手に料紙を持って書かれた率意の書であって字形を端正に書くことはむずかしいが、自由に速く書いているので筆力と筆勢があり、墨色にも変化があり、細い点画にも強さがある。

二十六歳の時の筆跡であることから、若い時からすぐれた手書きであったことがわかる。（春濤）

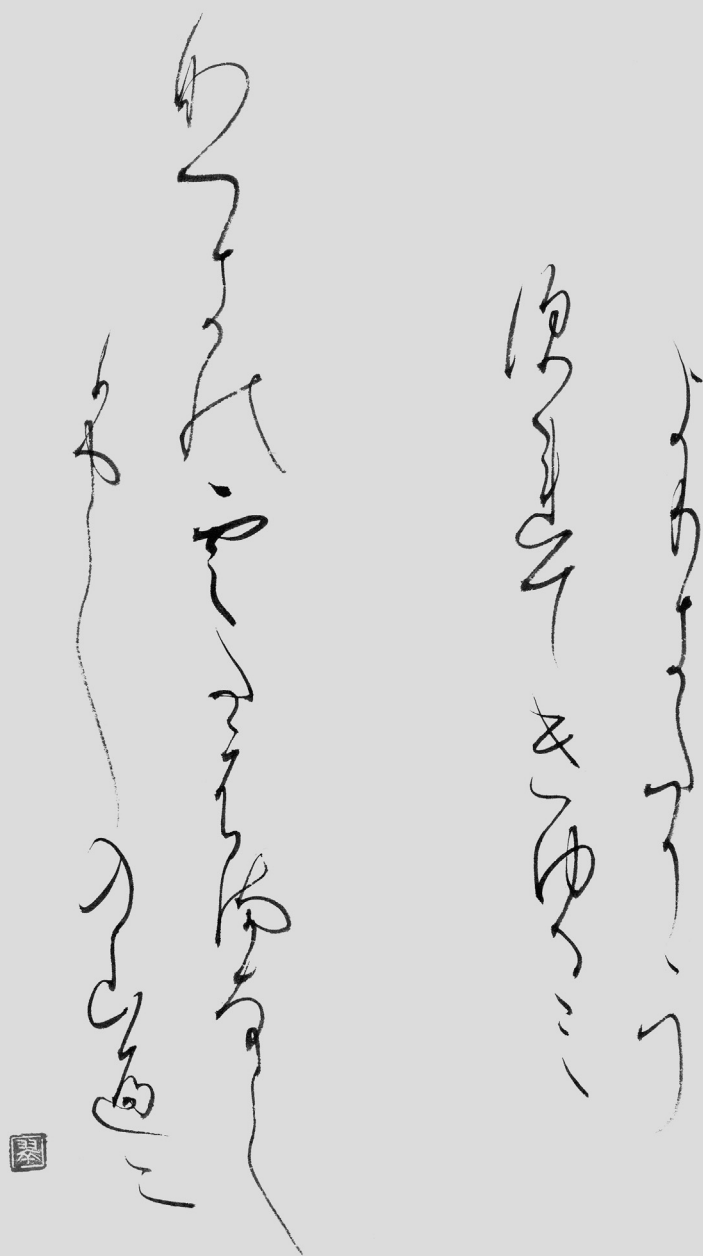


玄和細字用紙

※用紙サイズ：半紙 $\frac{1}{2}$ タテ書き（毛筆）・玄和細字用紙（25枚綴り ㊦550―税込、送料別）

西 墨濤先生書

松永翠舟先生書



よりきたり
利支多
うすれてきゆる
須連
みなつき
三那支能
雲たえまなし
多満奈
ふじの山べに
布遍二
(若山牧水)

9月30日正午必着

教育部毛筆



きゅう
休

か
暇

中学一年

雨宮春聲先生書



じょう
情

ねつ
熱

中学二三年

菅井松雲先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



榎戸春龍先生書

かい
回

てん
転

小学五年



横川春川先生書

よう
洋

がく
楽

小学六年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

9月30日正午必着



かわ
川

さかな
魚

小学三年

藤田幸春先生書



ば
馬

ぐ
具

小学四年

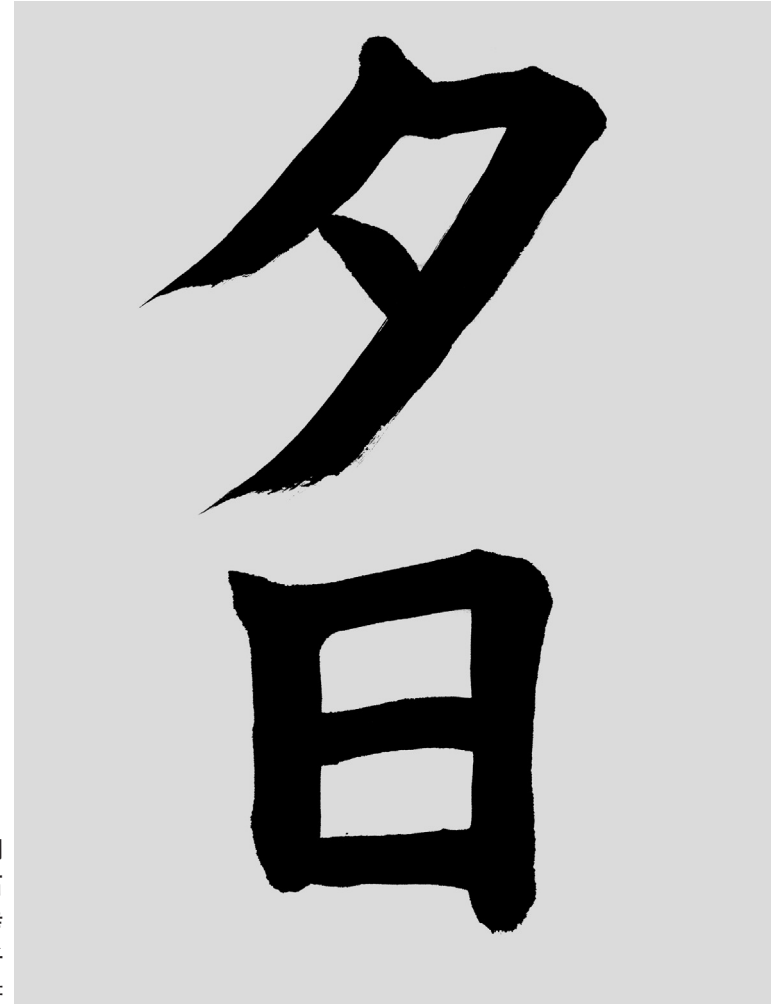
細谷春誠先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



明石幸子書

よ る 小学一年・幼年



森戸春濤書

ゆう ひ 小学二年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

9月30日正午必着

教育部硬筆

ペン字部

ブナの森林が広がる山
には大きな池がある

小学五年

澄みきった空気が
天地に流れている

小学六年

雲ひとつない日本晴れ
線でつながる海と空

中学

雲の切れ間に現われ
た鏡のように光る月

一般(級位)

ひぐらしの聲のうちより暮れ初めて雲しづかなりたそがれの山
(松平定信)

一般(段位)

明石幸子書

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。(ボールペン不可)
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。

と	か
	え
は	る
ね	が
ま	ひ
し	よ
た	ん

幼 年

な	う
	み
大	は
き	
い	ひ
な	ろ
	い

小学一年

す	ま
む	ぼ
池	ろ
が	し
あ	の
る	魚
	が

小学二年

え	草
る	む
虫	ら
た	か
ち	ら
の	き
声	こ

小学三年

風	色
に	と
ゆ	り
れ	ど
る	り
光	の
け	花
い	が

小学四年

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。(ボールペン不可)
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。

明石幸子書